

地 理 B

地理の得点力は短期間で大きく伸びる。ここからの学習が本番！

I. 全体講評

今回の最終12月センター試験本番レベル模試の平均点は58.9点であった。前回8月の平均点47.0点より12点近く高くなった。受験生の地理学習が本格化し、努力が実を結び始めたと言える。しかしながら、今年のセンター試験本試験の平均点60.1点と比べると、まだ1.2点下回っている。今回大きく得点を伸ばした者も、気を緩めずに学習を継続してもらいたい。センター試験本番までに残された時間はわずかであるが、地理という科目は、残り半月であっても努力と工夫次第で大きく得点力を伸ばすことが可能な科目である。Ⅲ. 学習アドバイスを参考にして、センター型問題集の演習を中心とする効率的な学習に取り組み、実力を最大限まで高めてもらいたい。

Ⅱ. 大問別分析

第1問 世界の自然環境と自然災害

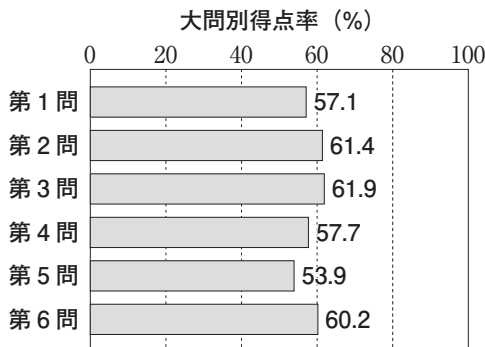
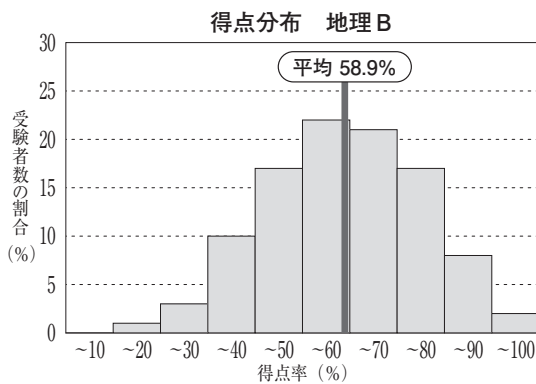
自然地理は高校地理全分野の基礎になる重要な分野。しっかりと復習しておくこと！

大問全体の平均得点率は57.1%であり、6つの大問中で2番目に低かった。高校地理全分野の基礎になり、かつセンター試験に毎年出題される自然地理分野の平均得点率としては物足りない。極端に正答率の低い問題はなかったが、基礎が完成していないとわかる受験生も少なからずいた。例えば、問1では、プレートの広がる境界の例として最もよく出題されるアイスランドを、せばまる境界の島とした選択肢②を正文と判断した受験生が17.4%、問4では、栗色土に関する正しい説明文を誤文と判断した受験生が26.7%もいたが、このような受験生は基礎固めがおろそかになっている可能性がある。もう一度教科書を読み返すなど、基礎・重要事項の復習をしっかりとしておく必要がある。

第2問 農牧業・水産業と食料

中国の大豆輸入量が世界でも突出して多いことは重要事項。しっかり頭に入れよう！

大問全体の平均得点率は61.4%と6つの大問中で2番目に高かったが、問5では、誤答②の選択率48.8%が、正答率47.0%を上回った。多くの受験生が、中国が世界の大豆の6割強を一国で輸入していることを把握しておらず、大豆自給率の低い日本が最大の輸入国となっている②を、大豆輸入の図と判断した。驚異的な経済成長で人々の所得水準が向上した中国では、食肉と油脂の消費量が急速に増加し、家畜飼料や油脂原料となる大豆の輸入量も飛躍的に増えた。また、そのことで、ブラジルなど南米の農業国では、輸出品としての大豆の重要度が極めて大きなものとなってきた。この傾向は、地理の受験生ならば必ず知っておくべき重要な傾向である。この機会にしっかりと頭に入れておきたい。



第3問 世界と日本の人口

良い結果が出たが、主要国の人口政策についてもう一度要点を押さえておこう！

大問全体の平均得点率は61.9%であり、6つの大問中で最も高かった。人口統計の図表問題が多かったが、全体的によく出来ていた。その中で、問3の正答率が30.8%とやや低かったが、インドネシアのトランスミグレーション政策と、シンガポールの人口増加政策についての知識が不十分であったことが原因と考えられる。主要国の人口政策について、教科書・図説資料集などでもう一度要点を学び直しておく必要がある。

第4問 アメリカ合衆国とカナダ

2016年のセンター試験では地誌の大問が2題に増加した。地誌学習に力を入れよう！

大問全体の平均得点率は57.7%であり、物足りない結果となった。高卒生の平均得点率は61.2%とまずまずであったが、高3生の平均得点率が57.4%と低く、苦戦したことがわかる。多くの高校が系統地理のあとに地誌分野を授業で扱うため、学習量が不十分なのはわかるが、2016年のセンター試験では地誌の大問が1題から2題に増えるなど、地誌が重視される傾向にあるので、残された期間で地誌の学習に特に力を入れる必要がある。本大問中で最も出来の悪かったのは問5であるが（正答率42.0%）、多くの受験生が、綿花栽培の盛んな地域はキとわかったものの、牛と豚の飼育頭数が多い地域については、どちらが力、どちらがクか判別することができなかった。日本では牛の飼育というと冷涼地域での乳牛の飼育を連想する人が多いので、緯度の高い州が上位となっている力の方を牛と判断したようである。間違えた受験生は解説を熟読して、正しい認識に改めておくこと。

第5問 東南アジア地誌

地誌は短期間で得点力アップを実現しやすい。これからの学習が極めて大切である！

大問全体の平均得点率は53.9%であった。極端に正答率の低い問題はなかったが、5問中、正答率が6割に届いた小問が問5の1問のみであったため、6つの大問中で最も低い平均得点率となってしまった。この時期、地誌の出来が悪くなりがちなる理由と、地誌の学習を重要視しなければならない理由

は第4問の講評で述べたので、そちらをしっかりと読んでほしい。地誌分野は知識を吸収することで、短期に得点力をアップしやすい分野であるから、残された期間では、センター形式の問題集の地誌の大問から優先的に取り組むなど、特に力を入れて学習するとよい。

第6問 地域調査（神奈川県）

地域調査の大問はセンター試験にほぼ毎年出題される。得意分野にして本番に臨もう！

大問全体の平均得点率は60.2%であり、標準的な出来であった。地域調査の大問はセンター試験にほぼ毎年出題されるので、もう少し得点力を高めてほしい。過去問やセンター型問題集で演習を重ね、得点源にすること。問4の正答率が47.7%とやや低かったが、山梨県より神奈川県の昼夜間人口比率の方が高いと判断してしまった受験生が多かった。昼夜間人口比率は都市化が進むほど高くなるわけではなく、中心都市、中心都市から遠い地域、中心都市に通勤通学者を多く送り出す近郊の順に高い値となる。解説をよく読んで復習しておくこと。

Ⅲ. 学習アドバイス**◆センター本番形式の問題集に取り組もう。**

センター型問題集は、実際に出題されそうな重要事項が詰まっており、本番までの限られた時間で、高校地理全体を学び直すのに最適である。「自分の持てる知識をフルに活用して正解を推理するぞ」という意識を持って取り組み、それでも間違えた問題については解説を熟読する。そして、間違えた理由が誤った推理方法によるものとわかったら、「なるほど、こう考えればよかったのか!」と、その時点で正しい考え方を身につける。間違えた理由が知識の欠落によるものとわかったら、その時点で正しい知識を吸収する。このような演習を繰り返せば、これからでも、かなり実力を高めることができる。地理は残り半月で大きく得点力を伸ばせる科目である。ここからが本番のつもりで頑張ろう！